



2023年 夏号  
発行元  
大垣市立図書館

# 歴史のなかの人々と出来事展

## 3階展示コーナーにて開催中



芳瀧画「假名手本忠臣蔵」

今回の展示では、有名な三  
大仇討と大垣とのかかわりも  
紹介しています。ぜひご覧く  
ださい。

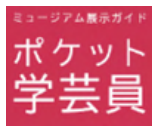
### 【開催場所・期間】

大垣市立図書館3階  
郷土資料室展示コーナー

令和5年7月1日（土）  
～8月24日（木）  
午前9時～午後5時まで

休館日：毎週火曜日、

7月19日（水）、28日（金）、  
8月14日（月）



※ポケット学芸員をご利用  
いただけます。詳細は右記QR  
コードをご確認ください。

# 学ぶ大垣講座 はじまります

学ぶ大垣講座は、当館所蔵  
の郷土資料を通じて、ふるさ  
との歴史・文化について学ぶ  
講座です。

今年、（公財）大垣市文  
化事業団学芸員の鈴木隆雄  
氏、清水すしミュージアム名  
誉館長の日比野光敏氏、元大  
垣市史編纂室専門員の横幕  
氏ほか3名を講師に迎え、開  
催します。皆様、是非、ご参  
加ください。

今年度も、Zoomによるオ  
ンライン配信を実施します。  
申込は、6月15日（木）か  
ら7月10日（月）まで。

会場受講（60名）は電話受  
付0584（78）2622、オ  
ンライン受講（90名）は大垣  
市電子申請サービスで受付し  
ております。※いずれも定員になり  
次第、受付を終了します。

こちらのQRコード  
より申込み可能。  
大垣市電子申請  
サービス画面が  
起動します。



回	日にち	テーマ	講師
1	7月17日（月・祝）	仮想 大垣宿竹島本陣に宿泊する	鈴木 隆雄氏 （（公財）大垣市文化事業団学芸員）
2	8月7日（月）	輪中の食文化	日比野 光敏氏 （清水すしミュージアム名誉館長）
3	9月18日（月・祝）	『おあむ物語』と大垣城戦	長瀬 とも（図書館職員）
4	10月9日（月・祝）	関ヶ原合戦・大垣の戦い	坂東 肇（図書館職員）
5	11月18日（土）	関ヶ原合戦後の大垣城主石川氏	児玉 剛（図書館職員）
6	12月10日（日）	『藤渠漫筆』を読む	横幕 孜氏 （元大垣市史編纂室専門員）
7	1月8日（月・祝）		
8	2月12日（月・祝）		

◎時間/午後1時30分～3時まで。会場/サイトピアセンター学習館2階 サイトピアホール

### 7・8・9月の 講座情報

ふるさと古文書講座

7月14日（金）

9月8日（金）

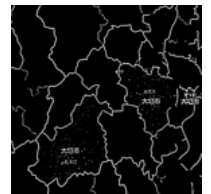
学ぶ大垣講座

7月17日（月・祝）

8月7日（月）

9月18日（月・祝）

大垣四季占い



今年の夏も暑く  
なりそう。  
市内の湧水スポット  
で休憩すれば  
運気がアップ！

# 大垣よもやまコラム

## ものがたり大垣城

（4）幻の天守筒瓦

坂東 肇

昭和5年大垣市役所発行の『大垣市史』上巻（通史）には、大垣城天守について次のように書かれています。これは、何を示すものでしょうか。

「天守閣の創建、此には慶長元年とあり。然るに天守閣筒瓦銘に『天正十六年六月廿二日京の栗田口住人いつみ（花押）かきおくも

後のをほゑとならさかや」とありといふ、如何にや。」  
この内容をわかりやすくすると、大垣城天守の創建は慶長元年（1596）と言われている。天守の筒瓦には天正16年（1588）6月22日、京の栗田口に住んでいるいつみが書きおいたものだが、後の覚えとなるだろうと書いてあるというが、それについてはどうであろうというものです。この瓦の銘が天守ができた時のものとする、創建は天正16年ということが考えられます。ただ、この銘には疑問があります。銘にある「京の栗田口」という場所は実際にはなく、地名は栗田口です。後の覚えとなるであろうということなら「ならさかや」ではなく、ならざらやと書くべきです。これらは書き間違いでしょうか、それとも偽物であるために、わざと間違えて書いたのでしょうか。

これらは実物で確認するしありませんが、現在その筒瓦はありません。『大垣市史』での書きぶりも、このような筒瓦があったというが、どうであろう、というものです。どうやら聞いた話で書いているようにも思えます。現物がなく、伝え話だけで決めることはできません。大垣城の天正16年天守造営は、幻というしかありません。（次号へ続く）

【問い合わせ】昭和初期の葉書の住所に「大垣市田口町」とあるが、どの場所にあるのか。  
【回答】大垣の地名を調べる本・大垣市地名研究会著『水都大垣の地名』【郷土293:134】によると、「昭和四八年（一九七三）禾森町から田口町」となったとある。地名のいわれに西濃運輸株式会社本社が移転し、社長の田口利八の名字が町名となったことが書かれている。  
戦前の地名では無いため、昭和43年発行の大垣市編『新修大垣市史』通史編一【郷土231:1】巻末「市内各町誌」から大垣の昔の地名を調べたところ、「田口町」の項目をみつける。「もとは高屋村のうちで「この町の北と西は高屋村の田に接続し、田の入口にあたるので田口町の名称がつけられた」とある。「昭和一八年四月町名改正で高屋町一丁目に編入した」ことがわかる。「ゼンリン住宅地図岐阜県大垣市1」【郷土293:1/21】で高屋町1丁目を確認したところ、大垣駅南周辺であったことがわかる。

【問い合わせ】大垣藩主戸田家について詳しく書かれている清水春一著『美濃大垣 十万石太平記』上巻【郷土332/333】をあげる。同書によると、戸田氏が徳川家康とその父・戸田一西が家康とその息子・徳川秀忠に仕えたことがわかる。吉

大垣を深めよ!

Gaki Quiz

私はだれでしょう。

拙者は、天文10年（1541）、三河国吉田（現・愛知県豊橋市）で誕生した。

ヒント①

拙者は、家康様のご恩により、近江国大津や膳所の城主となることができました。

ヒント②

この紙面を見れば拙者のことが書かれておるぞ。

ヒント③

第4号（春号）の解答

①河合 弘  
B『あ・ろあじーる』  
②江馬 細香  
A『湘夢遺稿』  
③大橋 慶子  
E『どうぶつ勝負（かちまけ）はっけよい!』  
④棚橋 弘至  
D『HIGH LIFE』  
⑤杉原 恭三  
C『随想 サトイモ』

### おすすめの1冊

## 『多良郷史』

多良歴史同好会／発行



3階郷土資料室、2階書庫（貸出可）、上石津図書館（貸出可）にてご覧いただけます。

大垣市上石津町宮を中心として「多良郷」と呼ばれた地域の歴史をまとめた一冊です。明智光秀生誕説の根拠となる資料や国指定史跡の「西高木家陣屋跡」を構えた西高木家の歴史など、古代から現代までの多良の歴史を紹介しています。

### レファレンス事例簿

【問い合わせ】大垣藩戸田家初代藩主氏鉄の父一西や祖父氏光が徳川家康とどう関わったかわかる資料はあるか。

【回答】大垣藩主戸田家について詳しく書かれている清水春一著『美濃大垣 十万石太平記』上巻【郷土332/333】をあげる。同書によると、戸田氏が徳川家康とその父・戸田一西が家康とその息子・徳川秀忠に仕えたことがわかる。吉

田城攻略と氏光の母の悲劇や徳川秀忠への献策進言などのエピソードが収録されている。その他、昭和5年大垣市役所発行『大垣市史』上巻（通史）【郷土231/1】、大垣青年会議所編『大垣ものがたり』（改訂復刻）【郷土231/333】をあげる。また、『月刊西美濃わが街』353の記事「近江名所図会」に描かれた膳所城 戸田一西・氏鉄が居城した城より、徳川家康が築城を命じた膳所城の最初の城主が戸田一西であったことがわかる。

【問い合わせ】昭和初期の葉書の住所に「大垣市田口町」とあるが、どの場所にあるのか。  
【回答】大垣の地名を調べる本・大垣市地名研究会著『水都大垣の地名』【郷土293:134】によると、「昭和四八年（一九七三）禾森町から田口町」となったとある。地名のいわれに西濃運輸株式会社本社が移転し、社長の田口利八の名字が町名となったことが書かれている。  
戦前の地名では無いため、昭和43年発行の大垣市編『新修大垣市史』通史編一【郷土231:1】巻末「市内各町誌」から大垣の昔の地名を調べたところ、「田口町」の項目をみつける。「もとは高屋村のうちで「この町の北と西は高屋村の田に接続し、田の入口にあたるので田口町の名称がつけられた」とある。「昭和一八年四月町名改正で高屋町一丁目に編入した」ことがわかる。「ゼンリン住宅地図岐阜県大垣市1」【郷土293:1/21】で高屋町1丁目を確認したところ、大垣駅南周辺であったことがわかる。

大垣を深めよ!

Gaki Quiz

私はだれでしょう。

拙者は、天文10年（1541）、三河国吉田（現・愛知県豊橋市）で誕生した。

ヒント①

拙者は、家康様のご恩により、近江国大津や膳所の城主となることができました。

ヒント②

この紙面を見れば拙者のことが書かれておるぞ。

ヒント③

第4号（春号）の解答

①河合 弘  
B『あ・ろあじーる』  
②江馬 細香  
A『湘夢遺稿』  
③大橋 慶子  
E『どうぶつ勝負（かちまけ）はっけよい!』  
④棚橋 弘至  
D『HIGH LIFE』  
⑤杉原 恭三  
C『随想 サトイモ』